雑草

大関松三郎

おれは雑草になりたくないな
だれからもきらわれ
芽をだしても　すぐひっこぬかれてしまう
やっと　なっぱのかげにかくれて　大きくなったと思っても
ちょこっと　こっそり咲かせた花がみつかれば
すぐ「こいつめ」と　ひっこぬかれてしまうだれからもきらわれ
だれからもにくまれ
たいひの山につみこまれて　くさっていく
おれは　こんな雑草になりたくないな
しかし　どこから種がとんでくるんか
取っても　取ってもよくもまあ　たえないものだ
かわいがられている野菜なんかより
よっぽど丈夫な根っこをはって生えてくる雑草
強い雑草
強くて　にくまれもんの雑草

問１．「おれは雑草になりたくないな」とあるが、その理由が書かれているのはどこからどこまでか。はじめと終わりの６字を抜き出せ。

問２．作者が雑草のことをどのようにとらえているかがまとめられている一行はどこか。

問３．「おれは雑草になりたくないな」のおれとは誰か。

問４．なぜ雑草はきらわれているのか。

問５．なっぱのかげの「かげ」を漢字で書きなさい。

問６．「こいつめ」のこいつは誰ですか。

問７．なぜ「強い雑草」と言っているのか。

問８．詩の中で「雑草」と反対の存在となっているものは何か。

問９．どういう点で反対なのか。

問１０．この詩を２つに分けるならどこで分けるか。